

御製

山々の

囲む長野に

集ひ来て

人らと共に

苗木植ゑけり

御製

山々の

囲む長野に

集つどひ来て

人らと共に

苗木植ゑけり



発刊のことば

平成28年6月5日、長野市オリンピック記念アリーナエムウェーブにおいて、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、本県では実に52年ぶりとなる第67回全国植樹祭を開催いたしました。

当日は、県内外から多くの皆様にご参加いただき、厳粛かつ盛会のうちに大会を終えることができました。大会の開催にご尽力いただきました関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

県土の78%を森林が占める森林県である長野県には、幾世代にもわたって大切に伝承されてきた「木と森の文化」に関わる伝統行事や、木曾漆器に代表される伝統的工芸品に加え、全国一の数を誇る「森林セラピー基地」や、全国に先駆けて創設した「信州やまほいく認定制度」など、森林を多面的に生かした取組がございます。

このような、本県が誇る多彩な「木と森の文化」を受け継ぎ、未来に向かってさらに発展させていくため、「ひと ゆめ みどり 信濃から 未来へつなぐ 森づくり」という大会テーマのもと、県内各地の祭りなどの伝統文化をふんだんに取り入れた式典を開催いたしました。また、式典には、4歳から83歳までの多世代に渡る方々に出演していただくとともに、式典の弁当メニューの考案や来場者が乗るバス内での観光ガイド、県内10か所に設けた植樹会場での植樹活動、苗木のホームステイ・スクールステイなどに、多くの県民の皆様にご参加いただきました。

この大会を通じて、豊かな森林を県民が協働して守り育て、有効活用し、未来に引き継いでいく姿、さらには、本県が森林県から林業県へと発展していく姿を全国に力強く発信することができたものと確信しております。

本誌は、第67回全国植樹祭の感動を皆様の心に留めていただくとともに、森林づくりや伝統文化の継承など地域づくりに取り組まれる皆様の一助となることを願って作成いたしました。多くの皆様にご覧いただければ幸いです。

結びに、第67回全国植樹祭の開催にあたり、多大なるご支援・ご協力を賜りました多くの皆様に改めて心からお礼を申し上げ、発刊のことばといたします。

平成29年3月

第67回全国植樹祭長野県実行委員会会長
長野県知事 河部守一

◆開催意義

長野県では、平成16年（2004年）に公布した「長野県ふるさとの森林づくり条例」に基づき「長野県森林づくり指針」を定め、さらに、「長野県総合5か年計画2013～しあわせ信州創造プラン～」を策定し、地域を支え、持続的に発展する林業・木材産業の構築を目指しています。

このような中で開催する第67回全国植樹祭は、豊かな自然、美しい景観を有し、私たちに様々な恵みを与えてくれる長野県の森林を、県民が協働して守り育て、有効活用し、未来に引き継いでいく姿を全国に発信する機会とします。

◆開催理念

私たち長野県民は、森林を守り育ててきた先人の努力に思いを馳せ、県民参加と協働による「確かな暮らしが営まれる美しい信州※1」を実現し、森林を次の世代に確実に引き継ぐとともに、長野県から始まる「森林を活かし 森林に生かされる 私たちの豊かな暮らし※2」を全国の皆様にお伝えします。そのために、以下の3つの理念により第67回全国植樹祭を開催し、国土緑化運動を推進します。

※1 長野県総合5か年計画2013～しあわせ信州創造プラン～ 基本目標
 ※2 長野県森林づくり指針 基本目標

(1) 植えて・育て・利用する「森林・林業のサイクル」を、取り戻そう

持続的に発展する「森林を活かす力強い林業・木材産業づくり」を進め、あたりまえに木が使われる社会を実現し、長野県が林業県としても飛躍する姿を発信します。

(2) 森林や身近な緑の恩恵を、もう一度見つめ直そう

森林や身近な緑が、かけがえのない存在であることを改めて見つめ直し、貴重な財産として守り育てることの重要性を発信します。

(3) 森林と共に生きる人々の思いを、伝えよう

森林・林業と県内各地の文化を育んできた森林に携わる人々の活躍を発信するとともに、美しい信州の文化を継承します。

◆大会テーマ

全国から応募があった1,226点の作品の中から、大会テーマ審査会において選定された2作品を組み合わせ、決定しました。

ひと ゆめ みどり
 信濃から 未来へつなぐ 森づくり

《作者》 いけなが かずひろ
 池永 一広 さん（大阪府高槻市）
 ひょうどう きとみ
 兵藤 怜美 さん（千葉県茂原市）

《決定理由》 短く、すっきりとした、今までにない独特な表現で、子供から大人まで心に残りやすい、人と緑を夢でつなぐ作品「ひと ゆめ みどり」と、長野県から未来に向けた森林づくりを進めるという開催方針に沿った方向性を明確に表現し、五・七・五のリズムが口にしやすい作品「信濃から 未来へつなぐ 森づくり」を組み合わせました。

◆シンボルマーク

全国から応募があった666点の作品の中から、シンボルマーク審査会において決定しました。

《作者》 もり ひでお
 盛 秀雄さん（青森県青森市）
 《制作意図》 長野県の「N」の文字をモチーフに、「信濃の山々」と、そこに生息する県の鳥「ライチョウ」と「森の文字」を組み合わせ表現しました。「信濃から 未来へつなぐ 森づくり」を発信する県民の姿をイメージし、シンボルマーク化しました。



◆大会ポスター原画

長野県内の小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の児童生徒から応募があった493点の作品の中から、ポスター原画審査会で選定しました。

《作者》 なかむら みひろ
 中村 実紘さん（応募当時 高遠高等学校2年）
 《画題》 「私たちの手で守る未来」
 《制作意図》 私たちの住んでいる地球が、たくさんの緑で溢れて動物たちも住みやすい世界を人の手で作っていきたいと思い描きました。



◆開催日・主催・会場

開催日 平成28年6月5日(日)
 主催 公益社団法人国土緑化推進機構・長野県
 会場 式典会場/長野市オリンピック記念アリーナ エムウェーブ
 植樹会場/上田市▶自然運動公園
 伊那市▶鳩吹公園
 松本市▶アルプス公園
 長野市▶茶臼山自然植物園

県民植樹会場/南木曾町▶漆畑地区	開催日/5月21日(土)
飯山市▶菜の花公園周辺	開催日/5月21日(土)
松川町▶およりの森	開催日/5月22日(日)
池田町▶あづみ野池田クラフトパーク	開催日/5月27日(金)
小海町▶小海町総合グラウンド	開催日/5月28日(土)
岡谷市▶湊地区(本沢川上流)	開催日/5月28日(土)



◆式典会場



長野市オリンピック記念アリーナ エムウェーブ

長野市オリンピック記念アリーナ エムウェーブは、平成10年(1998年)に開催された長野冬季オリンピックのスピードスケート会場として、また、引き続き開催された長野パラリンピック冬季競技大会の開閉会式場とアイススレッジ競技会場として、各国から多くのアスリートとお客様をお迎えしました。冬季は日本を代表する国際スケート連盟公認のスケートリンクとして世界大会や全日本クラスの競技会が開催されるとともに、春から秋はコンサートや各種イベントに利用される県内最大の多目的アリーナです。

長野市オリンピック記念アリーナ エムウェーブは、長野県産カラマツ集成材*による、世界最大級の木製つり屋根構造を持つ独創的な構造物として知られています。使用された集成材は約2,800㎡、一般住宅で利用される木材量に換算すると約112棟分に相当します。



*集成材とは、引板(ラミナ)を集成接着した木質材料で、木の良さを生かしながら自由な形状や長さができることから、住宅部材から大型木造建築まで、品質の安定した木質材料として幅広く利用されています。

◆県民植樹会場〈5月開催〉



南木曾町 漆畑地区
会場周辺は木と共に生きてきた木地師の里として知られています。



飯山市 菜の花公園周辺
千曲川のほとりに位置し、4月下旬から5月上旬にかけては菜の花が一面に咲き誇ります。



松川町 およりの森
中央アルプスの麓、松川のほとりに位置し、清流のせせらぎと小鳥のさえずりが聞こえます。



池田町 あづみ野池田クラフトパーク
北アルプスの山々と安曇平が一望できる公園で、園内には500本の様々なサクラが植えられています。



小海町 小海町総合グラウンド
北八ヶ岳の麓、松原湖高原に位置し、大自然の景観、澄んだ空気に映える星空が魅力です。



岡谷市 湊地区（本沢川上流）
平成18年7月豪雨災害から10年、徐々に緑がよみがえる崩壊地に森林を再生します。

◆県民植樹会場〈6月5日（日）開催〉



伊那市 鳩吹公園
南アルプスと中央アルプスの2つのアルプ스에抱かれ、天竜川と三峰川が流れる伊那市。鳩吹公園は、美しい南アルプスを臨み、11種類3万本ものツツジが咲き誇る素敵な公園です。

◆招待者記念植樹会場・県民植樹会場〈6月5日（日）開催〉



上田市 自然運動公園
日本最長の千曲川が流れ、自然に囲まれた上田市。自然運動公園は森林浴、スポーツに最適な公園として、市民の憩いの場になっています。



松本市 アルプス公園
国宝 松本城を有する松本市。その北西部に位置するアルプス公園は、北アルプス連峰や安曇野が一望できる自然を生かした広大な公園で、週末にはたくさんの家族連れでにぎわいます。



長野市 茶臼山自然植物園
国宝 善光寺を有する長野市。その南部の丘陵地帯に位置する茶臼山自然植物園は、善光寺平、菅平高原や志賀高原を臨み、恐竜園やアスレチック施設、隣接する動物園も含めてたくさんの家族連れが訪れます。

前回大会の様子

昭和39年5月13日、昭和天皇、香淳皇后に御臨席を賜り、第15回全国植樹祭（植樹行事並びに国土緑化大会）を「入会林野の造林推進」をテーマに茅野市八子ヶ峰で開催しました。この大会では、昭和天皇、香淳皇后にカラマツのお手植えを賜るとともに、1万5千人の招待者により、12ヘクタールの広大な原野に3万5千本のカラマツが植樹されました。また、塩尻市の長野県林業指導所（現県林業総合センター）において、昭和天皇にカラマツ、香淳皇后にアカマツのお手播きを賜りました。



昭和天皇によるお手植え



香淳皇后によるお手植え



昭和天皇と香淳皇后によるお手播き

御製
 八子^{やし}が峯にはかに
 電のふるなかを
 もろ人も苗を
 植ゑをはりたり



会場に御到着された昭和天皇と香淳皇后



歓迎にお応え



1万5千人によるカラマツの植樹

